

第7章 千倉地区（旧千倉町）

1. 位置

千倉地区は房総半島南端の東部にあり、地区西部の総面積36.25平方キロメートルは照葉樹木におおわれた山々が年中緑に輝いている。



白間津花畑



2. 地形

北東の旧丸山地区境から南西の旧白浜地区との境界まで約10.5kmを結ぶ主要道路を挟んで、海岸に沿って細長く伸びた幾段かの低い段丘状の砂丘や平地に人家や田畑が続き花卉栽培も行われている。



川口花畑

3. 山 岳

1) 雨乞塚 (別称、稲荷山)



雨乞塚（稲荷山）の全景

①概要

ア) 所在

旧千倉町平館に山はラクダの背に似た岩山が突出している。
前を稲荷山、後を双子山と呼ぶ。山頂は四方が開け眺望がよい。

イ) 標高

約40m

ウ) 歴史

昔はここで旱魃に苦しむ農民が鏡をたたき念仏を唱えて雨乞いをしたため、雨乞塚といわれている。

双子山には、石切場があり、こどもを近づけないために、この山には大蛇や狐が住んでいるとあって、おどしたという民話も残されている。

オ) 交通

千倉駅からバス、平館バス停で下車、約 分

②ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

平館バス停から少し戻り家具店横を左に入る。右手巨岩の先、正面に稲荷神社がある。社殿右手に登山道があり、岩を削った石段を登ると山頂に出る。

2) 魚見根山^{うおみねやま}



魚見根山の全景

①概要

ア) 所在

旧千倉町忽戸

イ) 標高

59 m

ウ) 歴史

第1展望台が北東の峰先端にあり「富士御神」と刻まれた碑がある。建立は江戸末期と思われる。信仰の山であった事が偲ばれる。また、手前には第2展望台がある。

かつては桜の名所であったが、太平洋戦争中軍に接収され桜は伐採された。昭和50年代に憩いの広場として整備され再興された。

エ) 自然

独立峰で山頂からは、北は勝浦市八幡崎から南は白浜まで展望が広がり眺望がよく公園になっている。

オ) 交通

バスで忽戸下車、バス停南から西に入ると神社があり、社殿右手に登山道がある。

②ハイキングコース

ウ) 建造物

東の中腹には、荒磯魚見根神社があり、7月の例祭には県指定文化財の「千倉三番叟」が奉納される。神楽殿の前には岩盤で階段状の観覧席がある。



忽戸三番叟

3) 高塚山



高塚山

①概要

ア) 所在

イ) 標高

216m

ウ) 歴史

別称 妙高山、前の山を竜護山と呼び古くから海上安全、大漁満足の守護神として漁民の信仰を集めていた。また、漁民にとっては海上からの目印の山となっていた。

山頂入口の仁王門には、雷神風神像がある。山門の後ろには不動堂があり、ここは鎌倉時代（1192～1333）の武将朝比奈三郎義秀の祈願所であったと伝えられている。義秀は和田義盛の三男で、和田合戦（1213）で敗れ五百騎を従え鎌倉を逃れ、船六艘に分乗して安房に逃れたと吾妻鏡に書かれている。



高塚不動尊



曲亭馬琴は吾妻鏡にもとづいて「朝夷巡島記」を著している。山頂の不動堂は火災で焼失したが戦後信仰の浄財をあつめて大聖院の裏山に不動尊を再建し、山頂の不動堂は奥の院として残っている。

高塚奥の院・山門



高塚奥の院

エ) 自然

山頂付近の樹木は長い間、人為が加えられず、原始性を保っており、また亜熱帯的な群落要素を呈している等の理由から昭和51年1月千葉県自然環境保全地域に指定された。



高塚山からの眺望

オ) 交通

千倉駅からバスに乗り七浦小学校前バス停で下車 約 分

②ハイキングコース

ア) 距離及び標準時間

七浦小学校前バス停から少し戻って北に入り高塚大聖院を目指して行く、寺の門前から右に入りしばらく行くと右からの東参道と合流する、石鳥居をくぐって石段を登ると間もなく山頂に達する。

イ) 建造物

◆高塚奥の院・山門の雷神風神像



雷神



風神

◆子連れ獅子

この狛犬は安房の彫工 3 名人の一人で、北朝夷村の出身で、後藤利兵衛橘義光の作である。明治 22 年 2 月（1889）74 歳の作品。



高塚奥の院の前にある子連れ獅子

5. 見どころ

1) 自然

①千倉海岸

千倉海岸は、北から南へ約14.53kmの海岸線を持ち、そこに二海水浴場と八漁港がある。海岸線北部に二海水浴場と一漁港、中央部から南部へかけて七漁港がある。漁港は自然の地形を利用し早くから開かれていたが、自然災害の影響を受け被害をこうむってきた。元禄16年(1703)の大地震では、地盤が陥没し白間津漁港が形成された。一方、大正12年(1923)の関東大震災では、八漁港が地盤の隆起があり改修している。



南千倉海水浴場



サーフィンが盛ん



千田漁港



平磯漁港

②屏風岩

忽戸から川口にかけての海岸1.3kmにわたって岸から沖へ屏風を立てたような不思議な風景を見せる岩の群れが見られる。土地の人はこれを屏風岩と呼んでいる。これは、海中の岩が太平洋プレート力で圧曲され海面に姿を現わし、長い年月をかけて風雨や波の浸蝕によって作られたものといわれている。



屏風岩

2) 歴史

①高家神社と庖丁式

高家神社は、旧千倉南朝夷上の塚にあり、町のほぼ中央部、谷津地区の海を見おろすところにある。

「日本書紀」、また延暦 8 年 (789) に奉ったといわれる「高橋氏文」によれば、「景行天皇が安房の浮島に行幸のおりに、磐鹿六雁命いわかむつかりのみことが鯉しろうむぎと白蛤かしわでのおおともべを調理し献上したところ、天皇は大層喜ばれ、以後、磐鹿六雁命は膳大伴部に任ぜられ、宮中の料理番として迎え入れられた」と記されている。

高家神社の祖神はこの磐鹿六雁命で、古くから味噌、醤油の神としても全国にその名を知られ、調理師、調味加工業者の信仰を集めてきた。

庖丁式は、装束は烏帽子を被り、袴を着用し、調理人、立会人などにより執り行われる、古式ゆかしいもので、庖丁と箸を用いて手をふれずに鯛、鯉、真魚鯉などを調理する。毎年 10 月 17 日と 11 月 23 日に高家神社境内で執り行われる。



高家神社



庖丁式のようす

②白間津踊り

4年に一度行われる日枝神社の祭礼の際に踊る奉納舞で民俗学的に貴重な伝統芸能。白間津おおまち（大祭）行事として、国指定重要無形民俗文化財になっている。



ササラ踊り



オオナワタシ



エンヤボウ



トヒイライ



酒樽萬燈

ごとうりへいたちばなよしみつ
③後藤利兵衛橘義光と後藤流彫刻継承者（堀江氏）

安房の生んだ名工、後藤義光（1815～1902）は本名を山口若松といい、文化2年（1815）朝夷郡北朝夷村の大工弥兵衛の子として生まれた。14歳のとき4尺程の大黒天立像を彫り人々を驚かせた。この像は現在、市指定文化財として川合の愛宕神社に保存されている。同神社には義光作の寶頭盧尊者坐像（市指定文化財）も保存されている。

23歳（19歳であったとも云われている。）のとき徳川幕府お抱え職人であった後藤三次郎恒俊に入門し技を磨き江戸や京都、鎌倉に多くの作品を残した。後に郷里千倉に帰り制作活動に励み安房各地の社寺や屋台（山車）の装飾彫刻等数多くの作品を残した。

明治35年（1902）没、88歳、墓（市指定文化財）は北朝夷の西養寺にある。義光は弟子をよく育て、後藤流彫刻は現在も瀬戸に住む堀江氏によって受け継がれている。堀江松太郎氏（雅号：後藤義孝）は大正12年（1922）関東大震災後に建てられた歌舞伎座や明治座の装飾彫刻に腕を振るった。また、昭和11年（1936）に完成した国会議事堂参議院の玉座を飾る大鳳凰も義孝の作品である。

④小松寺（檀特山小松寺）

旧千倉大貫小松にあり、宗派は真言宗智山派で本尊は薬師瑠璃光如来である。縁起によれば養老2年（718）^{えんのぎょうじゃ}役行者小角の創建によるとある。始めは巨松山医王院檀特寺と号し、延紀20年（920）国司安房守小松民部正寿が帰依し、七堂伽藍七棟を寄進し建立したと伝えられている。その後里見家、徳川家から寺領の寄進を受けたため、里見家及び徳川家康公からの寄進の品が多く見られる。天正18年（1590）9月里見義康から寺領53石6斗、二寸角龍首の朱印の寄進がなされた。始めは天台宗の寺であった。また、小松寺の「七不思議」の伝説も伝えられている。（小松寺）



小松寺

所蔵されている文化財：国指定文化財・銅造十一面観音坐像
県指定文化財・梵鐘
・木造薬師如来像
市指定文化財・不動明王立像

⑤円蔵院（新福山円蔵院）

旧千倉北朝夷字谷にある。宗派は真言宗智山派で本尊は地蔵菩薩である。安房三巨刹の一字である。かつては、北朝夷字寺庭にあり、荒神山徳恩寺円蔵院と号した。文安元年（1444）に現在の地に移り、新福山と改め現在に至っている。戦国時代の頃は里見氏の帰依を受け寺領を賜った。江戸時代になってからは歴代将軍から寺領 50 石を賜った。里見氏、江戸幕府から 50 石の御朱状の納宮が保管されている。6～7月にかけて境内は、アジサイが見ごろとなる。

所蔵されている文化財：市指定文化財・本堂・玄関・庫裏・客殿
・梵鐘（享保 8・9 年在銘）
・鐘楼
・天女と竜・牡丹と子連獅子
（初代後藤義光作、本堂正面欄間）



円蔵院

⑥清国船元順遭難救助の碑

この碑は南千倉海岸にある。安永9年(1780)5月2日、清国(現中国)の貿易船元順が暴風雨のため座礁し、乗組78名全員を救助した祖先の英雄的行為と国際的人類愛の美談を後世に伝えると共に、日中友好平和のシンボルとして、事件発生以来200年目に当たる昭和55年(1980)にこの碑が建立された。

⑦早川雪洲^{せつしゅう}の誕生地

雪洲(1886~1973)は明治19年七浦村の千田の「良一郎」と呼ぶ綱元の家で生まれた。本名は金太郎、長じて渡米し、日本人初のハリウッドスターとして活躍した。代表的作品に「神の怒り」「レ・ミゼラブル」などある。中でも「戦場に架ける橋」は有名で、アカデミー賞助演男優賞にノミネートされた。

⑧鳥山確齋の碑

確齋(1819~1856)名は新三郎といい、字義所確齋とよばれた。文政2年(1819)2月3日大川村宇山孫兵衛正質^{まさ かつ}の二男として生まれた。確齋は文武両道を志した。28才の時日本橋桶町に「蒼龍軒」という私塾を開いて兵学、漢学、儒学を教えた。

吉田松陰、桂小五郎、梅田雲浜^{うんびん}などと交流の深かった勤王の志士であった。安政3年(1856)7月29日病により他界した。確齋の偉業を称え誕生の地に碑が建立された。

3) 産業・特産品

①水産業（漁業の歴史）

この地の水産業の歴史は古く、奈良時代（710～784）平城宮址から養老6年（722）及び天平17年（745）乾鮑^{ほしあわび}を「調」として納めたことを示す木簡が出土し、そこに健田郷（（注）安房地域にあったとされる。どこにあったかは特定されていないが、千倉の健田が有力である。）と記されていることから、この地では古くから漁業が営まれていたと思われる。

江戸時代になると、関西の漁民が関東に進出し本格化された漁業が営まれるようになった。

現在も漁業は千倉地区の重要な産業であり、あじ、さば、いか、とびうお漁や伊勢エビ漁をはじめ磯根を利用したアワビ、サザエ等の採貝漁が行われている。最近は「獲る」漁業から「育てる」漁業へ積極的に取り組んでいる。



伊勢海老



サザエ

養老6年10月の木簡には安房國朝夷郡健田郷仲村里私部真^{きさいべ}（中略）とあり、天平17年10月の木簡には、上総國朝夷郡健田郷戸主額田部小君戸口^{ぬかたべ おぎみこう}とある。このことから健田郷とは何処かその所在地の究明が始まった。健田というところと鮑の産地が近いということから千倉の健田が注目されているが、旧三芳村滝田地区が健田郷とする説など諸説があり、いまだ特定されるにいたっていない。

②農業

古くから水稲、花卉、酪農を中心とした複合農業が営まれていたが温暖な気候を活かした水田の裏作として露地花栽培が盛んに行われるようになり、近年、観光花園として脚光を浴びている。



白間津花畑

③特産品（水産加工品）

漁業の町として知られている千倉では、水産加工業が盛んであり、アワビ、サザエ、イセエビ、タイの西京漬、イワシの竜田揚げ、アジの干物、サンマの丸干し、イカの一晩干しが店頭で並んでいる。



4) 体験型観光

①海の体験

海では、エビ網、定置網見学、磯釣り、船釣り、天草干しなどの体験ができる。

②山の体験

野山では、みかん狩り、田植え、芋堀、酪農、筍狩りなどの体験ができる。

花畑では暮れになると、ストック、キンセンカ、菜の花などが咲き始め一足早く春の花を見ることが出来る。花畑ではその花を観賞し、摘み取り（有料）することが出来る。期間は、12月から3月末まで。



千田花畑

③クラフト体験

ものづくり体験として、アジのひらき作り、味噌作り、ところてん作り、餅き、藁草履作り、お手玉作り、ガラス細工、海草押し花作りなどが出来る。

※いずれも「南房総市観光協会千倉支部」を通じて体験することができる。 ☎0470-44-3581 FAX0470-44-2317

5) その他

①潮風王国

29,000平方メートルの広大な敷地があり、目の前には海があり、船を形どった展望台や芝生の広場がある。建物の「千倉黒潮物産センター」では、魚介類の直売、加工品、特産品の販売をしている。

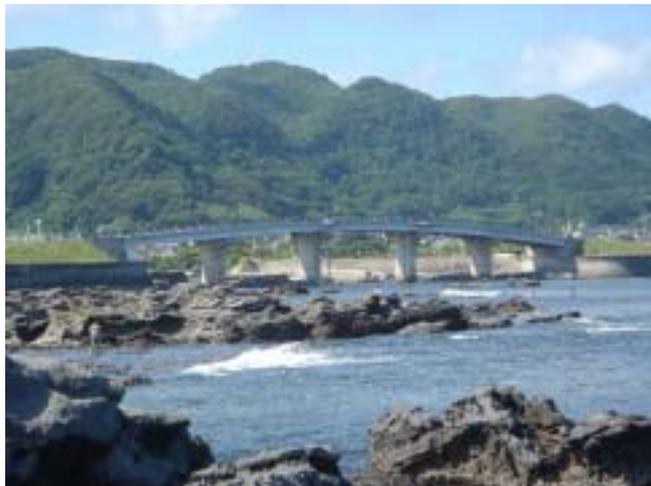


店内のようす

潮風王国

②南房千倉大橋公園

千倉出身のイラストレーター安西水丸さんがデザインしたタイルが歩道にあしらわれている。橋のたもとにある公園内いっばいに、くじらの絵が描かれ通称くじら公園ともいわれている。



南房千倉大橋

